

世界最速を生んだ3秒の改善～F1ピットに学ぶ品質とスピードの本質～

私たちの住むここ三重県には、日本が誇るF1の聖地、鈴鹿サーキットがある。毎年、世界最高峰のドライバーたちによる熱戦が繰り広げられ、多くの観客を魅了している。

私がレース中、最も目を奪われる場面の一つがピットインだ。マシンが停止すると約20人のクルーが一斉に動き、わずか2～3秒で4本のタイヤを交換し、必要に応じてフロントウイングの調整まで行い、再びコースへ送り出す。その一糸乱れぬ動きは、まさに芸術といえる。

しかし、この速さは最初から実現できたものではない。1950年代のピットストップは1分近くかかることも珍しくなく、1970年代でも30秒前後を要していた。それが専用工具の開発、役割分担の見直し、作業の標準化、そして何千回にも及ぶ訓練と改善によって、現在では2～3秒が当たり前となり、2023年には1.80秒という世界記録も達成されている。

この進化は、一人ひとりの動きが速く

なったからではない。ピットクルーは立ち位置や工具を持つタイミングまで細かく定められ、全員が同じ動きを正確に再現できるよう徹底的に訓練されている。目指しているのは、単に速く動くことではなく、決められた作業を確実にやり遂げることだ。ホイールナットの締め付け不良など、たった一つのミスがレースの結果を左右する。だからこそ品質と安全を保证する仕組みが何よりも優先される。品質を極限まで高めた結果として、世界最速のピット作業が実現しているのである。

この考え方は、私たちの仕事にもその



まま通じる。どれほど優れた設備や最新技術を導入しても、それだけで高い品質や生産性は得られない。一人ひとりが役割を理解し、決められた手順を確実に実行し、小さな改善を積み重ねることで、組織全体の力は大きく向上する。

F1ピットの真髄は、「改善を積み重ねる仕組み」にある。コンマ数秒を短縮するために、練習や映像解析、シミュレーションを繰り返し、「理想どおりの作業を再現できたか」を検証し続ける。それは単なる効率化ではなく、再現性のある品質を追求する取り組みそのものだ。

鈴鹿サーキットで繰り広げられる数秒間のピットイン。その裏側には、70年以上にわたる改善の積み重ねがある。劇的な改革ではなく、小さな改善を愚直に積み重ね、それを確実に実践し続ける仕組みこそが、世界最高のパフォーマンスを支えている。これはF1だけではない。私たちの仕事もまた、その積み重ねの先に、本当の品質と競争力があるのではないだろうか。



測ってみよう! 探検隊 Vol.93

事務所の「騒音」×「脳波」を実測! 私たちの集中力はいかに?

「以前の記事 (2026年3月号 Vol.199) で、事務所内の「騒音レベル」を測定し、快適な目安とされる数値を、時間帯によって上回る場面があることを報告しました。「では、そんな環境の中で、私たちの脳は一体どんな状態になっているの?」という疑問から、今回は測定器「Muse2」でデスクワーク中の「脳波」を測ってみました。

測定結果 1 Muse2 脳波測定による時間帯別業務集中度分析レポート

MORNING

朝 (7-8時台) - 静寂・フレッシュ

朝一で脳が覚め、人々も静かな環境。高い集中力が維持され、究極のゾーン状態。



【オススメ】深い思考を要する重要な仕事

AFTERNOON

昼 (12-13時台) - 睡魔・雑音

昼食後で睡魔や周囲の雑音で一時的な集中力の乱れを来す。深い集中へ引き戻す修正力が確認。環境適応能力。



【オススメ】単純作業、ルーチンワーク

EVENING

夕 (17時以降) - 混雑・疲労

事務所内に人が最も多く、身体や脳の疲労から多くの集中力低下。集中力が乱れる時間帯が確認。リセットで回復。



【オススメ】休憩やイヤホンで状況をリセット

測定結果 2

測定時の状況	リラックス度 (Calm%)	脳の状態 (特徴)
何もしない休憩 (屋外など)	80% 程度	【休憩】脳がしっかりオフになり、最もリラックス!
簡単作業 + ヒーリング音楽	60% 程度	【安定】落ち着いた状態で作業ができていたよう
簡単作業 + POP な音楽	30% 程度	【興奮】楽しく作業できても、脳は興奮・活動状態?

朝のゾーンを活かし、夕方は休憩やイヤホン等で脳を労わる。その時に聞く音楽も要注意! 状況に合わせたメリハリワークを意識してはいかがでしょうか。

東海テクノからのお知らせ

「これ、分析できる?」から生まれた新サービス、続々登場!

お客様から寄せられるさまざまなご相談をきっかけに、当社では新たな分析サービスを相次いでリリースしています。今回ご紹介するのは、廃棄物に含まれる金属を調べ、資源としての可能性を探る「廃棄物資源ポテンシャル評価」、再生石膏粉の安全・適正な利用を支援する「再生石膏粉の分析・評価支援」、そしてEUの包装規制に対応した「PPWR対応分析」の3サービスです。

「処分するしかない」「何を確認すればよいか分からない」「海外規制への対応に困っている」——そんな課題を、分析によって次の一手につなげます。これからも東海テクノは、時代やお客様のニーズを捉えながら、役立つサービスをどんどん形にしていけます。新商品ラッシュ、まだまだ続きます!

廃棄物資源ポテンシャル評価

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/er-analysis/waste-potential/>

再生石膏粉の分析・評価支援

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/er-analysis/recycled-gypsum-powder/>

PPWR対応分析

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/er-analysis/eu-ppwr/>

社員プチコラム

戸田 勝也 (環境事業部)

北中米ワールドカップで日本代表は惜しくもブラジルに敗れました。内容は決して悪くなく、前半の先制ゴールには思わず夜中に大声を上げてしまいました。最後まで勝敗の行方が分からない好ゲームでしたが、世界の強豪はここ一番で決め切る力が違います。わずかな隙を逃さず得点につなげる勝負強さこそ、ブラジルの厚い壁だったように感じました。日本とブラジルの差は90分で1点。たった1点ですが、遠い1点でもあります。その1点を埋めるために、選手たちはまた4年間積み重ねていくのでしょうか。4年後、どんな景色を見せてくれるのか。楽しみに待ちたいと思います。



編集後記

急に気温が上がり、厳しい夏がやってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。この暑い中、東京ビッグサイトで開催された展示会GPECでは多くの方にご来場いただき、様々な情報交換ができたこと、この場を借りて感謝申し上げます。本格的な夏はこれからです。作業性も落ちてくるかと思いますが、適宜休憩、音楽を取り入れるなど、乗り切っていきたいものです。(みっちー)

